

## 公私立大学実験動物施設協議会 2022 年度（令和 4 年）総会議事録

【総 会】13：00～15：10

日 時：令和 4 年 6 月 17 日（金）

場 所：昭和大学 上條記念館 上條ホール

会員（施設）数：	208 施設（193 機関）
出席会員（施設）数：	69 施設
委任状提出会員（施設）数：	100 施設
会場参加数：	100 名（内非代議員 18 名）
ライブ配信参加者数：	113 名（内非代議員 26 名）
来賓参加者数：	8 名（会場参加 4 名、ライブ配信参加 4 名）

司会を鈴木さつき役員（日本歯科大）が担当し、総会の進行上の注意事項などがアナウンスされたのち、以下の総会次第に従い滞りなく、かつ円滑に進められた。

### 1. 開会の辞：

佐加良英治副会長（兵庫医大）から、出席会員数と委任状の合計が会員総数の過半数を上回り、公私立大学実験動物施設協議会会則第 18 条の規定により、定足数を満たしており、本総会は成立する旨の報告がなされ、公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という）の 2022 年度（令和 4 年）総会の開会が宣言された。

### 2. 会長挨拶：

新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着いた状況ではあるが、政府の緩和方針を踏まえ、今年度は対面審議を基本に、Zoom Webinar を利用したリモート参加も併用した総会及びシンポジウムを実施すること及び実験動物及び実験動物施設関連の情報の共有化を目的として本総会を企画したことが述べられた。企画における役員各位の尽力に謝意が述べられた。動物実験を取り巻く国内外の状況から、今日、特に動物実験関係者が取り組むべき課題は、自己点検・評価の確実な実施、公私動協の要請項目に準拠した情報公開及び外部検証の受検であることが強調された。さらにこれらが疎かであると、2019 年に改正された動物愛護管理法の附則が、数年後の改正で本則に反映されることについて、現実の問題として危機感をもつ必要があることを重ねて強調された。外部検証が実施され 13 年を経ており、未受検会員には早急に受検するよう要望された。また、役員の高齢化が進んでいることから、世代交代を見据えた若手代議員の積極的な委員会活動への参

加が要請された。

### 3. 来賓紹介：

國田会長よりライブ配信参加を含む以下の来賓が紹介され、会場にご臨席された4名が挨拶された。

文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課研究設備係長（併）研究支援係長	村山 竜也 様
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係長	齋藤 正明 様
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学専門官	中川原秀樹 様
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係	米光 理紗 様
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係	古田 和輝 様
国立大学法人動物実験施設協議会会長	二上 英樹 様
厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会会長	小木曾 昇 様
厚生労働省大臣官房厚生科学課	長谷川朗生 様

#### (1) 文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課係長(併)研究支援係長 村山 竜也 様

「令和4年度予算及び令和3年度補正予算について」、「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドラインについて」及び「大学研究強化に向けた取組について」をテーマに学術研究に関する動向について、ご挨拶を兼ねて説明が行われた。

#### (2) 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係長 齋藤 正明 様

「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下「基本指針」という。）」の策定の経緯及び概要について、ご挨拶を兼ねて説明が行われた。その中で、毎年行われている基本指針の遵守状況の調査結果及び令和元年に改正公布された動物の愛護及び管理に関する法律の附則についても触れられた。動物の愛護及び管理に関する法律の規制強化の動きがあり、今後も現状の機関管理を維持していくためには、外部検証の受検率の向上が必要であることを強調された。

#### (3) 国立大学法人動物実験施設協議会会長 二上 英樹 様

国動協の組織並びに外部検証の状況について報告された。さらに、国動協の運営を支える人材の若返りと長年に渡る取り組みの継承は、公私動協と共通の課題であることが述べられた。

#### (4) 厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会会長 小木曾 昇 様

厚労働協に加盟している研究機関について紹介された。実験動物管理者への教育訓練並びに

外部検証に関する活動状況として、特に中小規模施設に対する教育訓練の提供や外部検証の実施に注力していることが報告された。今後も情報を共有して、公私動協および国動協と連携していくことが述べられた。

#### 4. 議長選出

司会（鈴木さつき役員）から自薦・他薦による議長選出を求めたが、自薦・他薦が無かったため、役員会推薦の藤澤千恵会員（東邦大学）が紹介され、承認された。

以下、議長により議事が進められた。

#### 5. 議 事：

##### (1) 令和3年度会務報告及び活動報告

國田 智会長（自治医大）から、2022年度定期総会のWeb開催及び書面審議、Web開催による総会及び第26回シンポジウムの実施とwebinar配信、会誌（公私動協年報No.29）の発行、Zoomにて4回の役員会（1回の対面会議を含む）の開催と持回り審議17回、ICLASモニタリングセンター運営検討委員会、国動協総会、動物実験関連団体円卓会議等への出席、ドライッパーの正しい使用方法に関する周知を会員に依頼したこと等々が報告された。加えて、全ての委員会における令和3年度の活動報告が國田 智会長より行われた。

##### (2) 令和3年度役員選挙結果

令和3年度役員選挙結果について、秋元敏雄役員（日本医大）より報告された。

##### (3) 令和4-5年度会長・幹事・監事について

令和4-5年度会長・幹事・監事が登壇し、國田 智会長（自治医大）より紹介された。

##### (4) 令和4-5年度委員会について

令和4-5年度委員会委員長が登壇し、國田 智会長（自治医大）より紹介された。

##### (5) 令和3年度会計報告

荒田 悟事務局長（昭和大）から、「2021年度収支計算書」の内容が説明され、会計報告がなされた。

##### (6) 令和3年度監査報告

鈴木真監事（沖縄科学技術大学院大）から、喜多正和監事（京都府立医大）と「財産目録」

を基に監査した結果、会計処理が適正かつ妥当であった旨の会計監査報告がなされた。

## (7) 令和4年度活動計画（案）

### ①会長としての運営方針

國田 智会長（自治医大）より、本日の総会及び第27回シンポジウムの開催、会誌の発行、役員会の開催について報告された。今年度も引き続き、公私動協会員所属機関における適正な動物実験による教育と研究の進展を図るために、特に、会員所属機関における外部検証、未加入の機関の勧誘と動物実験関連法規遵守の周知等の啓蒙活動を推進することが示された。加えて、国動協および厚労働協等との連携・協力関係の強化と（公社）日本実験動物学会や（公社）日本実験動物協会等の関連学協会との情報共有を基に、会員あるいは社会に向けた情報発信を推進する旨が示された。

②学術情報・広報委員会：委員長 田中聖一（福岡大）からは、(1) 運用予定のメーリングリスのメンテナンスを継続すること、ホームページのメンテナンスを継続すること及びホームページの追加コンテンツの検討並びに令和4年度の年報にID、パスワードを記載することが提案された。

③教育・研修委員会：委員長 小泉 誠（慈恵医大）からは、「実験動物管理者の教育訓練」を本総会の翌日に開催することと合わせてオンデマンドでの配信の検討、また、「動物実験委員会」をテーマに8月9日と10日に日本獣医生命科学大学での研修会の実施を企画していることが提案された。

④バイオセーフティ委員会：委員長 佐々木 崇（札幌医大）からは、バイオセーフティや実験動物感染症及び関連講演会・研修会等に関する情報収集、会員への情報提供、並びにSARS-CoV-2、豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の実験動物感染症・人獣共通感染症に関する情報の収集と、会員への情報提供が提案された。

⑤遺伝子組換え動物実験委員会：委員長 大石久史（名古屋市立大）からは、遺伝子組換え動物に関する情報、海外からの研究用生物試料の受け入れに関する新しい国内ルールに関する情報及び「ゲノム編集」関わる国際的な動向に関する情報を収集し、会員に提供することが提案された。

⑥組織・制度検討委員会：委員長 若井 淳（岩手医大）の代理として鈴木 さつき副委員長（日本歯科大）からは、「公私動協規程類集」を作成すること、例年通りに会則および諸規程等の一部改正や整備を行うこと、その他会長の指示による事項について検討することが提案された。

⑦評価・検証制度検討委員会：委員長 荒田 悟（昭和大）からは、日本実験動物学会事業の一環として外部検証が例年通りに実施されることが報告され、その受検申込締切日は7月

末であるので早めに手続きするようにとの呼びかけがあった。

- ⑧記録・編集委員会：委員長 磯野協一（和歌山県立医大）からは、2022年度（令和4年）総会資料を作成したこと、並びに年報30号の編集と発行、2023年度（令和5年）総会資料の作成を実施することが提案された。
- ⑨アドバイザー委員会：委員長 長尾静子（藤田医大）から、引き続き、質問・相談事項の寄稿を会員施設に広く募集する、より多くの会員に回答者として参加して頂く、話題になっている問題を提起し、Q&A方式で解説する、何でも質問箱の第2版を作成することが提案された。
- ⑩調査委員会：委員長 岡田利也（大阪公立大）から、年度計画としては教育・研修委員会と協力して文部科学省基本指針への対応をフォローアップすること並びに「実験動物施設の現状調査」の項目を点検し、令和3年度の調査を行うことが提案された。
- ⑪動物実験適正化委員会：委員長 佐加良英治（兵庫医大）から、会員（施設）及び新規入会希望施設における動物実験の適正化を支援することの他、動物実験適正化に関する業務を役員会や会員の依頼に応じて行うことが提案された。
- ⑫選挙管理委員会：委員長 石橋英俊（東京医大）から、選挙人名簿・被選挙人名簿作成の準備および次回役員選挙実施要項の検討が提案された。

審議の結果、以上の令和4年度活動計画（案）は賛成多数で承認された。

#### (6) 令和4年度予算（案）

荒田 悟事務局長（昭和大）から、「2022年度収支予算案」が提示された。

審議の結果、令和4年度予算（案）は賛成多数で承認された。

#### (7) その他

特に審議事項は無かった。

議長（藤澤千恵会員）の進行により以上の審議が進められ、すべて承認されたのち、議長の任を解かれた。

#### 6. 表彰：

当協議会に長年にわたり尽力された喜多正和会員（前会長）に対して感謝状が贈呈された。喜多正和会員より謝意が述べられた。

#### 7. その他：

(1)2023 年度（令和 5 年）定期総会の開催について

2023 年度（令和 5 年）定期総会等は以下の通り開催予定である旨が、世話人となる長尾静子役員（藤田医大）から報告された。詳細はホームページに掲載される。

日 時：令和 5 年 6 月 23 日（金曜日）

会 場：藤田医科大学 フジタホール（大学 1 号館）

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98

内 容：

1. 総会議事・第 28 回シンポジウム 13:00～17:00

2. サテライトミーティング 17:30～19:30

なお、教育・研修委員会主催の研修会「実験動物管理者の教育訓練」は同会館で翌日（6 月 24 日（土曜日））に開催予定であることが報告された。

(2)2024 年度（令和 6 年）定期総会の開催について

2024 年度（令和 6 年）定期総会は以下の通り開催予定である旨が、世話人となる若井 淳（岩手医大）に代わって國田 智会長（自治医大）から報告された。詳細はホームページに掲載される。

日 時：未定

会 場：ホテルメトロポリタン盛岡（予定）

内 容：未定

8. 閉会の辞

定期総会世話人の荒田 悟副会長・事務局長（昭和大）から閉会が宣言され、公私動協 2022 年度（令和 4 年）定期総会が閉会した。

資 料：

1. 公私立大学実験動物施設協議会 2022 年度（令和 4 年）定期総会資料

2. 令和 4 年度公私立大学実験動物施設協議会総会 配布資料

（文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課）

3. 「大学等の研究機関における適正な動物実験の実施について」

（文部科学省研究振興局ライフサイエンス課）

4. 研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン

（文部科学省科学技術・学術政策局研究振興局）

【第 27 回シンポジウム】 15 : 20～17 : 00

座長（國田 智(自治医大)・佐加良英治(兵庫医大)）の進行のもとで、「動物実験の外部検証について」をテーマに 4 題の講演と質疑が行われた。要旨は総会資料に掲載してある。

1. 外部検証のこれまでの歩みと今後の課題 喜多 正和 (京都府立医大)
2. 外部検証で指摘される問題点や改善すべき事項 佐加良英治 (兵庫医大)
3. 日本の検証調査と AAALAC International による認証調査の比較  
鈴木 真 (沖縄科学技術大学院大)
4. 外部検証の義務化及び動愛法改正に関わる動向 國田 智 (自治医大)

【2022 年度（令和 4 年）サテライトミーティング】 17 : 00 ～ 19 : 00

昭和大学上條記念館（富士桜）にて、「今後の協議会の役割について」をテーマに荒田 悟副会長・事務局長（昭和大）の進行の下で開催された。

以 上